



信玄全集

五

ケ 5
68
5





甲陽軍鑑全集 卷五

犛牛卷

一 弱さうろ大將村兩上并小糸衣生起石我物語事
 才三番臆病才大將公必ガて女似うろ人とも種富留
 志と存痛を覚一毎母世實繁と別とく無意也一七公出
 福公今才ん知は核れと一ともう事外の米固とうとうもれは
 ひう小糸衣生もる是偏弱大將の公長癡也ともかれれ人と大
 ねといひたらも大長と二方三方或六方六方れ小ねとおてと
 毛としねといふと方人の内外として如一未練もう大將と公
 せとくと意地ときされた棄用ともとく知り而復を取米
 後とも意のとうらもとく今よれまさるも是たかかるこり
 とし時外にしまわくもと事事福とし又能強大ねとて
 富とれ能とるもとく一是と報は杖つさ忠の身とははり

極そののつらさく何ぞ好く大なるもまた極子孫の
の所す興てこの事合極志好くと思ふたが事かして此
多かるくと海原とる此方の元朝ある付下方がはあ
さる生付つらさくこれ像棄用とても好むとる
意地あてて人の自利のみすゝらむがとる教育の棄
強ぬとあり若しくは二弱をあはせれば何れも此の
ある事一に棄もたるとしてしてはぬとる事
それくれば物と自利好むとるは心の剛なる大將
のさく公剛をたが事理法を好むれば好むは
ある時あててえと好むとるは一人の根や
後毛路好むは忠義の良大功と多御心標とあつても究
り母更なる人一人をたがればあを棄用とてあつても

を花さくつらさく一人強極又脱病大將を義理と編
外中をたがもつらさく好むと思はれれば其考り
うげ脱病を合せと只大將の方と守り守りも
かの勇まらば好く大將の下とるは好むとる事
然とて興とて此のあてはけは実數とて自然
物此の強さるつらさくもたつては何れも
とうと計が別一人弱むひと今方相ひつらさくと計
存よ付せらる人の強さると思ふ事合ては今も
いひつら我朋友の利はせんと思ひつらさくと
そらと困大とて定つらさくもたつては合
とりせし勝負と付親書子物と思はせて入ぬ事と
とるは弱をたが事理法を好むれば好むは

平井を敵味をたぐはしきふもてふちていふは二合人
 つ有之方傷國東園分加をせしむるなり夫れ是の天罰のたま
 敷もまたしむた世未成や成らん。善武之の事ともわたりぬ
 ちも十人の中八人の人なき其の強きをたぐひの事なり
 事とは別よりもたぐひ自海よりいひたれも抑も不ばは
 味方討をは及之此討は信じて宗吉を以て南軍を考あな事
 的燕四ヶ年とわらぬ。但燕人のをたぐひ上他をいふ事。今
 俟てまれば其の多き事なるれば此は道理とせしむ。今
 勝彩と五代の斬りきりぬ。其後約園を討す大坂助成敵せしめ
 理と批とをさしゆく。しるる人なき大村小舟をいひたぐひの
 敵も牙もたぐひ國風之君子の事同風とていふ公のいふまじれ

左儀のく小袖さしきとて其合討に力ぬが向て
 介さしたる事なりと防事いふことこれせむる君と平大将
 をれくよは付ぬわ習た大村四ヶ年之善徳敵大村善
 大平なりこの討めをいふも勅不勅下居て法道具不
 こと多し踊あはて用ふこととせむる。水も式水海捕船下在
 又下知して其合つものけさせ。我中軍も其方々勝利とせ
 て。威光強多れが入軍しあ。軍はゆかんてすも越あはし
 其下の徳士万念と合我は後らんと敵友。邪は私れとて
 くあり敵身方たむた意の所はるはわして間にも不合はる
 ずく越え藩入られ。勤大村と公の事いひたるの事いひ
 経る所神かくいぬるも大村の下の事。後信を考あはし
 て。分別とてし。善事。永くあ。増あはたす。かきとてと

深くまぬ耳候合るとして。なうか。あ。い。か。別と。貞。ち。人。
 ねと。才。二。ま。あ。強。大。将。は。な。軍。が。ら。貴。行。天。地。は。ら。く。
 の。成。之。喧。ね。又。ん。く。人。の。怖。と。公。の。不。必。大。お。ね。ま。の。強。氣。
 子。なり。科。も。な。ま。家。を。と。福。先。付。ま。外。の。信。と。と。か。の。事。
 後。行。た。の。の。書。機。種。と。う。く。の。其。か。も。不。管。じ。と。文。社。
 以。の。本。や。と。代。或。か。き。と。ま。い。て。業。あ。り。と。久。敷。親。親。家。
 充。肉。元。機。を。と。せ。地。の。ま。し。池。や。く。や。え。公。入。て。ん。ご。り。又。人。
 ふ。ら。ら。せ。我。も。く。ら。と。し。無。行。と。く。く。一。強。を。ま。れ。な。ま。
 人。が。た。抱。り。ひ。と。お。れ。ま。あ。と。腹。と。ま。を。可。知。る。を。め。て。
 勝負。も。付。ぬ。喧。ね。と。ま。と。せ。て。け。ぬ。戦。場。の。附。公。並。り。は。
 内。申。て。な。れ。と。若。き。あ。ま。ま。人。多。才。三。書。し。後。年。大。將。志。
 を。此。ぬ。う。し。人。文。と。管。武。事。と。ま。の。為。軍。ぐ。ら。文。武。二。道。と。

人の。兵。と。と。公。の。五。ね。大。お。ね。ま。の。物。と。傍。ら。れ。と。く。
 あ。て。ま。う。下。な。ま。ま。人。多。才。の。形。を。な。り。勇。力。を。守。管。ま。く。
 武。の。乃。の。喜。あ。内。之。才。三。書。能。く。り。ま。大。將。右。史。文。の。業。大。人。
 公。の。嫌。の。あ。い。る。と。く。の。付。つ。る。時。勢。が。能。く。と。ま。り。ま。り。と。
 内。申。下。知。ま。れ。ん。大。才。三。書。の。大。將。お。け。り。と。又。大。地。震。
 の。聞。入。出。或。の。和。氣。ま。あ。り。と。依。り。と。援。伐。四。は。多。才。能。と。て。
 然。く。と。り。て。切。あ。く。あ。の。能。と。し。と。れ。か。も。や。強。遠。捕。刺。
 な。り。大。軍。勝。ま。の。ま。下。の。人。と。ま。と。ま。い。り。敵。機。機。機。付。
 早。立。退。か。せ。あ。ま。ま。人。多。才。の。小。才。お。け。り。と。や。都。ら。帝。一。く。
 毎。う。其。事。と。公。の。五。ね。大。將。の。ま。し。の。強。氣。相。敵。れ。ま。り。と。
 深。入。と。し。敵。ま。り。め。の。大。路。退。は。わ。く。と。途。ら。り。と。其。下。の。な。ま。
 人。若。く。思。も。不。知。せ。貴。機。を。あ。て。か。れ。喧。ね。は。備。し。も。と。な。り。

物入能申中。又上秋各合の義。この内り之義。所存如故。
打寄。又大将の身。人々首は。くく。喜多成。年月。後。又上秋。
が。又之。他。果。ま。く。この内。則。政。公。親。皇。朝。義。の。代。は。
成。則。政。公。永。正。元。甲。午。年。此。能。を。な。れ。尊。皇。祿。三。年。年。女。七。歳。よ。
て。家。督。皇。親。朝。義。も。し。代。代。を。是。之。威。も。如。梅。亦。宗。家。
は。宗。重。公。氏。徳。公。二。代。を。は。皇。相。横。支。國。治。也。も。尊。祿。二。年。
を。氏。康。卒。六。歳。九。物。凍。氷。危。の。府。中。人。出。し。て。款。公。也。上。秋。也。
小。宗。家。の。果。然。つ。り。下。き。丸。の。上。秋。也。滅。却。九。陽。相。也。上。秋。の。中。
を。ろ。く。成。嶽。三。万。福。也。な。ら。し。威。名。合。是。を。は。氏。康。出。也。
へ。ま。が。力。と。して。い。や。し。も。上。秋。公。の。人。數。三。万。三。百。打。向。祥。宗。宗。
則。武。元。府。也。た。り。と。宗。重。公。也。も。年。々。と。り。宗。重。公。也。八。
年。の。名。合。大。合。戦。も。小。迫。合。也。を。も。敵。と。して。や。し。則。政。公。

た。及。も。お。給。さ。り。在。此。看。て。氏。康。を。も。う。こ。ん。と。も。事。耶。誠。
小。宗。家。の。了。夫。也。の。時。と。り。や。り。改。り。宣。ん。れ。上。秋。家。に。
功。を。な。極。危。と。は。お。取。け。を。官。位。出。せ。汝。等。大。略。上。原。公。庫。
是。也。事。也。小。宗。宗。重。元。年。伊。豆。の。つ。り。も。し。ら。い。さ。り。お。り。せ。
系。線。の。氏。康。が。ゆ。此。源。事。も。多。一。伊。豆。相。横。也。玉。押。も。小。宗。二。
三人。合。し。る。禮。の。大。身。也。越。後。国。東。奥。也。多。く。も。く。は。雄。下。也。六。
人。を。も。さ。り。上。秋。家。傳。も。な。ら。し。も。小。宗。道。乃。之。公。も。一。も。一。
も。ひ。し。ら。る。よ。付。也。則。政。公。為。德。出。され。て。此。は。押。し。り。給。り。
と。又。人。の。口。を。て。着。得。を。則。政。公。也。宗。宗。家。也。傳。符。今。日。明。其。
と。多。事。年。の。と。し。上。秋。公。也。の。内。康。也。も。な。れ。官。然。乃。馬。
馬。也。出。り。あ。り。と。し。上。秋。代。も。も。始。ま。り。是。と。指。て。稱。が。さ。
大。約。と。し。お。梅。伊。豆。は。國。より。あ。ら。る。小。宗。と。も。一。し。り。る。と。

昭憲の治るるにわづらふ奥の大将の治るるに人々の安んずるに
 道として夫功のてに教家の双方の。よふ家の人をたのべん。傳
 則政を合点ありて又家教の善なる。上京尋ねる。又云入の流
 石れと也。少くも。是れは功も。徳も。分れ。七倍。は。家。お。款
 て。以。て。徳。實。村。廿。九。年。の。所。を。も。た。ぬ。一。に。ん。れ。余。女。事。
 也。て。ん。多。付。て。さ。な。ぬ。の。天。身。流。く。親。近。給。ふ。秘。儀。を
 我。の。め。あ。ふ。別。は。な。た。身。流。思。ひ。つ。も。り。事。合。て。関。中。中
 の。久。可。家。と。し。大。將。の。切。り。成。ぬ。を。家。の。是。ま。を。到。る。別。は
 切。り。と。き。う。へ。さ。ぬ。守。る。と。し。被。信。付。が。さ。し。被。信。も。是
 ら。ま。ら。ぬ。光。大。切。な。る。日。に。親。戚。に。さ。さ。り。て。も。も。り。理。を
 を。す。れ。合。官。外。不。合。息。一。の。の。関。中。を。し。結。城。も。も。り。平。安。
 原。原。を。も。も。り。酒。井。お。く。て。さ。さ。り。て。さ。さ。り。の。創。り。の。も。り。

比阿代より始。ま。初。り。む。ち。な。板。則。政。公。若。か。り。友。友。初。て
 介。の。否。仕。事。と。是。を。則。政。思。は。箇。白。分。別。と。し。被。信。も。是
 さら。と。し。の。何。復。た。被。信。と。原。次。方。也。の。此。也。の。信。お
 之。評。家。一。給。う。次。然。左。云。云。又。并。又。及。信。が。る。と。し。は。家
 家。下。さ。り。り。な。ま。せ。指。越。本。の。ら。い。ま。殿。官。士。并。又。さ。三。十。九。歳。に。も
 人。と。上。板。乃。代。也。之。お。家。氏。繼。と。身。合。の。地。目。半。并。より。檢。使
 の。十。九。の。歳。も。た。な。り。れ。女。柄。と。被。信。山。の。内。也。被。信。也。足。指。給
 け。中。さ。り。り。な。ま。せ。左。云。云。又。并。又。及。信。が。る。と。し。被。信。も。是
 之。則。政。家。督。の。初。り。の。兼。將。と。堅。法。を。な。す。の。の。別。也。人。を。
 被。信。作。付。ら。り。り。乃。被。信。と。信。と。が。む。ら。人。も。さ。り。れ。な。
 信。交。被。て。將。と。さ。り。り。并。又。及。信。乃。初。り。お。し。と。け。し。被。信。も
 人。の内。也。と。被。信。と。并。又。及。信。乃。初。り。の。事。人。限。り。本。同

てと入大事れ武勇を安内なるカキ物と持約は計
 策と云世田各の坊七仏を二字有亦武勇ありて一守款
 三和を先中敷大敵二番身方大將より。元をりて大身
 威大將用ニ番強敵ハ約守方事なれ徳之の武勇之敵
 事分んころ計も社名合分守り計と危を事あふ計あり
 約守之扱より上取家本方并又近玉五部も信を平六威
 中と耳利徳ある方と難後より中申は次なる能讀ふ
 入約守大敵助るより上取家より。名色急を武勇信徳也
 と外守人妻合信合して。事事能極は信正より。又武勇
 と京旗なりと。とくめく親類信事左の中ふ別と
 軍中人集信合はひふと事と事付人して。上取

一 如宗宗雲雲集伊勢十四より。今合は本後河今川が彼
 官成は新と存三は。今合は。元來伊豆の甘んことあり
 出より。子孫ありし。事なり。今合は。元來伊豆の甘んことあり
 本後河わ。り。あ。下。東。の。原。中。大。は。は。負。其。親
 と。氏。能。入。り。今。川。の。水。也。な。り。は。時。自。其。の。地
 主。是。地。能。保。民。田。和。安。ふ。成。付。俸。喜。徳。千。事。は。是。將。大。將
 小。懐。山。城。日。海。が。舞。上。は。昨。今。も。元。佐。虎。が。舞。成。る。息。女。也
 假。拵。回。り。て。出。お。今。川。へ。流。せ。し。て。父。宗。雲。今。川。の
 親。と。い。ふ。回。る。と。事。向。り。る。事。也。子。氏。能。代。る。音
 同。と。い。合。今。川。の。物。と。い。は。是。氏。能。理。達。ふ。付。て。當。り
 廻。び。今。川。へ。返。る。天。道。より。如。宗。家。と。母。く。む。り。て。は。舞。成。ひ
 能。我。く。あ。る。尚。事。と。事。也。越。事。と。事。也。如。宗。家。と。事。也。何。れ。と

色う。則政を信雄とせられ、滅亡をうくるをこの越後守
 為年共三采にみぬが、武造の事一帯を惣と唯奇計を
 扱(ト)男色(ト)もみぬれ、役めも、まを信内(ト)のちたぬと、り付
 中、大友をねと、信来法師は二命が、武造は、みぬれ、か
 く、以、越家の常を、信来も、事も、不斜あ、を、信来、り、二
 信来、の、み、又、か、り、并、武造と、能は、り、り、との、事、は、後、人
 波、系、り、度、と、て、信、保、の、化、り、と、せ、り、信、能、は、て、も、武、造、ハ
 大、敵、り、う、用、物、と、し、信、保、の、行、信、り、り、の、み、ぬ、れ、信、来、は、特、を、り、
 て、武、造、と、し、ぬ、越、家、の、名、実、き、事、と、り、り、信、来、の、武、造、り、
 我、り、大、敵、の、事、と、存、り、武、田、信、虎、家、者、我、系、常、一、陸、武、造
 と、信、来、列、の、信、保、と、付、ぬ、き、を、信、保、の、行、信、り、り、信、来、ハ
 て、院、甲、府、と、押、は、し、む、信、虎、が、内、の、ち、た、ぬ、大、の、身、持、は、ぬ、人

ね、子、計、な、れ、信、保、と、武、造、れ、入、り、連、首、も、信、保、内、信、来、と、武、造、と
 信、保、れ、ぬ、頼、朝、様、透、之、の、付、あ、り、信、保、は、大、敵、と、お、敵、お、系、武
 造、と、り、ぬ、信、保、あ、り、を、信、保、と、ぬ、信、保、お、お、他、り、り、武、康、信、
 高、家、と、信、保、信、保、と、信、保、院、目、身、持、は、ぬ、信、保、と、ぬ、大、事、と、ぬ
 ら、ぬ、信、保、と、ぬ、信、保、と、ぬ、信、保、院、目、身、持、は、ぬ、信、保、と、ぬ、大、事、と、ぬ
 院、目、身、持、は、ぬ、信、保、と、ぬ、信、保、院、目、身、持、は、ぬ、信、保、と、ぬ、大、事、と、ぬ
 三、公、人、信、保、と、ぬ、信、保、院、目、身、持、は、ぬ、信、保、と、ぬ、大、事、と、ぬ
 平、も、越、後、長、尾、為、系、と、日、中、十、五、の、合、戦、と、ぬ、院、目、身、持、は、ぬ、信、保、と、ぬ、大、事、と、ぬ
 利、と、ぬ、信、保、院、目、身、持、は、ぬ、信、保、院、目、身、持、は、ぬ、信、保、と、ぬ、大、事、と、ぬ
 今、十、五、信、保、と、ぬ、信、保、院、目、身、持、は、ぬ、信、保、と、ぬ、大、事、と、ぬ
 信、保、と、ぬ、信、保、院、目、身、持、は、ぬ、信、保、院、目、身、持、は、ぬ、信、保、と、ぬ、大、事、と、ぬ
 信、保、院、目、身、持、は、ぬ、信、保、院、目、身、持、は、ぬ、信、保、と、ぬ、大、事、と、ぬ

事申信あるに於ては批判をいつくせぬに玉大内及東國上校
殿とて平朝も日本西殿大將とせりまらぬ身は出来ぬと
と申す今をいふと一筋をいふに於ては實にさびらりてこと
申すは馬場出さるに御付む事

一解若殿は前代家老大田道宣と御沙ひてらる事大
らぶらる解若殿は元服今をいふと十人久し居當家上代
後然に中絶されしをいふ事かある井又他より行はぬ
家の大身は人質とて居りて思怖と持て居る事又若殿は
来いぬ表裏に於て我々二人は堅固なる事と申す況大身は
則政公の代とて下りしと頼りて御家督の御三年より去り
後信をいふと若くは御一年中元日計出仕して御八月の
が右殿より事と御平井二十里はる事と申す所の村は御先

の家上校家持とて則政公御忠告をいふとお懐たる若殿は
右とて持たしめしと出来ぬ事

一三ヶ条の法度の事公望ら御付是むの事

一平井に於て柄の事とて又御家老たるよりいふ事教御
御いあらる。お条の事とて之振業法御公三とありてお物
もいふ御様もいふ事と御付むの事

一かある井平年中の事とて御公望ら御付是むの事
是は公望上校家老たるよりいふ事とて御公望ら御付是むの事
とていふ事と御公望ら御付是むの事

右の事条後世と承ぬ人として御上則政公御付是むの事
御公望ら御付はる事と御公望ら御付はる事と御公望ら御付
はる事と御公望ら御付はる事と御公望ら御付はる事

又こそ則此病を此病ひとして懸せ給ひ。早升おぼね
 るあつしはほころふより女と家とせが小茶家(四一)一
 ろる。大身おぼいしと夜大膳兵庫人(一)使と借通(一)外路の
 まつもねしとせたりし。早升の控がおぼしやう
 懸せ武具のちるても(二)死舞法をあれ表ひ(二)小徳(二)
 う(二)ひ(二)な(二)懸(二)あ(二)れ(二)表(二)ひ(二)さ(二)小(二)徳(二)と
 又(二)懸(二)あ(二)れ(二)表(二)ひ(二)さ(二)小(二)徳(二)と
 人の白拍子(一)下(一)つ(一)こと(一)を(一)義(一)人(一)と(一)引(一)き(一)て(一)七(一)十(一)人(一)
 る(一)を(一)申(一)揚(一)せ(一)り(一)大(一)膳(一)者(一)と(一)り(一)兵(一)庫(一)二(一)人(一)は(一)白(一)拍(一)子(一)ら(一)を(一)引(一)
 て(一)日(一)の(一)暮(一)ら(一)ぬ(一)後(一)は(一)女(一)を(一)ま(一)つ(一)約(一)め(一)せ(一)り(一)と(一)申(一)し(一)
 中(一)に(一)は(一)り(一)に(一)言(一)せ(一)り(一)は(一)る(一)に(一)是(一)に(一)平(一)の(一)強(一)弱(一)を(一)大(一)敷(一)の(一)
 噂(一)勝(一)つ(一)る(一)み(一)の(一)女(一)を(一)申(一)せ(一)女(一)人(一)肩(一)目(一)に(一)お(一)こ(一)女(一)人(一)に(一)分(一)か(一)る(一)

え申せ女が批判を我より論一(一)肩目(一)と(一)申(一)す(一)女(一)人(一)と(一)引(一)き(一)
 懸(一)あ(一)れ(一)表(一)ひ(一)さ(一)小(一)徳(一)と(一)引(一)き(一)て(一)七(一)十(一)人(一)
 る(一)を(一)申(一)揚(一)せ(一)り(一)大(一)膳(一)者(一)と(一)り(一)兵(一)庫(一)二(一)人(一)は(一)白(一)拍(一)子(一)ら(一)を(一)引(一)
 て(一)日(一)の(一)暮(一)ら(一)ぬ(一)後(一)は(一)女(一)を(一)ま(一)つ(一)約(一)め(一)せ(一)り(一)と(一)申(一)し(一)
 中(一)に(一)は(一)り(一)に(一)言(一)せ(一)り(一)は(一)る(一)に(一)是(一)に(一)平(一)の(一)強(一)弱(一)を(一)大(一)敷(一)の(一)
 噂(一)勝(一)つ(一)る(一)み(一)の(一)女(一)を(一)申(一)せ(一)女(一)人(一)肩(一)目(一)に(一)お(一)こ(一)女(一)人(一)に(一)分(一)か(一)る(一)
 え申せ女が批判を我より論一(一)肩目(一)と(一)申(一)す(一)女(一)人(一)と(一)引(一)き(一)
 懸(一)あ(一)れ(一)表(一)ひ(一)さ(一)小(一)徳(一)と(一)引(一)き(一)て(一)七(一)十(一)人(一)
 る(一)を(一)申(一)揚(一)せ(一)り(一)大(一)膳(一)者(一)と(一)り(一)兵(一)庫(一)二(一)人(一)は(一)白(一)拍(一)子(一)ら(一)を(一)引(一)
 て(一)日(一)の(一)暮(一)ら(一)ぬ(一)後(一)は(一)女(一)を(一)ま(一)つ(一)約(一)め(一)せ(一)り(一)と(一)申(一)し(一)
 中(一)に(一)は(一)り(一)に(一)言(一)せ(一)り(一)は(一)る(一)に(一)是(一)に(一)平(一)の(一)強(一)弱(一)を(一)大(一)敷(一)の(一)
 噂(一)勝(一)つ(一)る(一)み(一)の(一)女(一)を(一)申(一)せ(一)女(一)人(一)肩(一)目(一)に(一)お(一)こ(一)女(一)人(一)に(一)分(一)か(一)る(一)

終さんおとら及つる程のふれと云と他と分也又人並乃
男が抽スミヤつる事として方人の申申も三人は傍ら程
自傷もると上と申男もあつた事とて大敵事と
思ふらあとして笑ワラと云とと名付ふは名を大将以下に
人を他とけしと信ふこととて友人と嫉ウラミ恨む武士もは
ま程若ら他信よくして人を嫉恨すは武士我胸あて
かひ得ど一が命合云申とて敵方信忠あつた事程あり打
果つれ月と云もつてつて書あつた後取ふて虎の上か唇
と信ふことと別してむとて人を嫉恨すは名付ふ程
我とて敵身と親クニして敵の云ふことと命合と云ふより能
武士の志勳熱別人の腹をさすこととて後ウラミもけしとて
内放ちて己が身は命の志と云ふは能事とねむりつて母の

世の類縁は男とて他と我員負の人の威光ありと云ふ
是も女人の實際之儀もけしとて世の實際は別ありと云ふ
はよりおとら又吾人の名を理系よ付信申ふこととて近代
我も式身付て是は教ふれた越後徳信の信云と云信云
家よりへ越後と信ら彼益て嫉ウラミりもねむりつては信忠
あれはつた矢と云つたんと思ふが家康も信云と云と云
かより信云も若らよと云つてくは越後虎芳らぬらねと云
は越後のことと大越城を安布施を介来し信三川信と
多中。山形同く信三川信。信三川信。信三川信。信三川信。
中根七右衛門信三川信。信三川信。信三川信。信三川信。
三川のことも信云と云と云と云。信三川信。信三川信。
同利と云ふは信云と云と云と云。信三川信。信三川信。

と冷に抱くもさるる女侍の離つし馬の後夫を成すも重き
 持重もさるるもあつた事とてさしおひき置けしと機は
 度情とあひ思況日中余別は投ぬま大内教頭上上教頭と
 て教と持人より人持持の大身は能家もの能練とてさるる
 たさるるさるる升とて。若上上系は徳とせられ始まると
 とのく又わう作らるるさるる二二系乃重なりとて。世中
 親の子と思ふは五孫徳男のあささるるさるる思まぬは
 痛^{ナキ}きつて文と怖してさるるさるる後、茶と女母の痛
 て矢とせし思ひ思ひさるる時母親附とて。後、病氣で眼つ
 きわくさるるさるる世に死する時母梅はさるるさるる則改
 しくして。若上上系はさるる機よさるるさるるお系家と
 や思ひ陣とやさるるさるるさるる腹病れさるるさるる
 合

若し後、若上上系はさるる改改さるるさるるさるる
 おさるるさるるお系家と思ひ思ひとて。或は信尻平賀の成
 村上頼平もさるるさるる勝合戦れ事とて。お系家とさるる
 は女が我と一信れ義人と思ひ思ひとて。又さるるさるる
 女成りおわさるるさるる信尻平賀とて。さるるさるる
 ことにて。徳^{ノ子}則改改はさるるさるる思ひ思ひとて。さるる
 さるるさるる大将と女お似たりとて。中、國之上板板は
 九十八人といひ。徳^{ノ子}後、男は女年いふ都娘心も。又休和尙と
 て。若上上系は和尙いふ人といひ。さるるさるるさるる
 同今、お系家とて。中、さるるさるる事。お系家とて。さるる
 さるるさるるさるるさるるさるるさるるさるるさるる
 とて。さるるさるるさるるさるるさるるさるるさるるさるる

去るは人の言悪く死後ふかふかぬぬと云ふ事
 中集讀和尙信玄の物語に武士の位にまゝにけつる事
 重く氣絶とぬよりや一じよ及びぬる事人かどて
 世おもきる事まゝとて齊の事ぬれぬ
 や一由ぬ我をみてかみ武士の股にねせぬるはぬ
 間中をそれく小徳也則改の家申に何うも柄人と
 も小身成法を練ふ別々元を人をもと小身とぬ
 若し親類の大身元の中見負と何うも老老とて何の
 若し人かかぬ右とぬ多の夫あつたは氣絶とぬ
 うてがとてといふ事も小身して人の名と呼ぶへ自然目
 中あつて一もいふは合徳の柄を人あつて教めていふ
 は陳防廢忘と云ふことくも地とてあつて身の上大ぬ

去る病れいふは有り。古語曰癘^ク善^ク則^ク名^ク妻^ク賞^ク一^ク則^ク
 衆惡^ク故^クと云ふことく若し上原か人の白拍子と云ふ事
 いふ人をあつてふかふ事白拍子と云ふ事果か法をさ
 世あつての礼舞に振舞はせしむる事則改家あつて
 大の加勢もいふ事平井の徳士も若しとていふ事
 よむ汗^ニ葉^ニ法^ニ度^ニとて彼人の白拍子あつていふ事
 又格^ニ授^ニ却^ニぬとていふ事女をさかしていふ事
 舞していふ事舞をさかしていふ事校家治人とも
 野^ニ付^ニ事^ニり申^ニし盗^ニをい^ニたり射^ニ殺^ニる^ニれが柄とて則改
 と呼出す事の新いふ事とて是將大將也信人則改を
 此道とていふ事と云ふ事立^ニ奥^ニとて和家也申^ニ大^ニ者^ニとて
 是^ニ根^ニ本^ニ法師^ニは^ニ是^ニ根^ニ本^ニ法師^ニとていふ事とていふ事

公孫と作らるればをさしめしとて我とて方付たるよりとて我を
約と城内へあかまげらるるをさしめしとて我をさしめしとて
結るる事とて金人とてはさしめしとて我をさしめしとて城内
へ何れ遣化もありし事とて我をさしめしとて我をさしめしとて
沙と情のありし事とて我をさしめしとて我をさしめしとて
万余付死しとて我をさしめしとて我をさしめしとて我を
軍中良人といふ事とて我をさしめしとて我をさしめしとて
公孫軍をさしめしとて我をさしめしとて我をさしめしとて
公孫軍をさしめしとて我をさしめしとて我をさしめしとて
小大とて我をさしめしとて我をさしめしとて我をさしめしとて
て大道とて我をさしめしとて我をさしめしとて我をさしめしとて
うもつとて我をさしめしとて我をさしめしとて我をさしめしとて

大道とて我をさしめしとて我をさしめしとて我をさしめしとて
かつらに別打又は別打とて我をさしめしとて我をさしめしとて
上原別打とて我をさしめしとて我をさしめしとて我をさしめしとて
進ぶかといふ事とて我をさしめしとて我をさしめしとて我を
領勝病の事とて我をさしめしとて我をさしめしとて我をさしめしとて
三谷曰く内貪外廉詐言取名竊公為恩念上下昏餽躬
正類以獲高官是謂盜端又曰賢臣内則邪臣外邪臣
内則賢臣斃内外共宜禍乱傳世大臣疑主衆姦集衆
意密入道是分心と不慮ととて我をさしめしとて我をさしめしとて
と用はるる事とて我をさしめしとて我をさしめしとて我をさしめしとて

天正三十二年六月日

長坂約困者
此が天坂の事

そ坂彈心

天正三

Handwritten text in a cursive style, possibly a list or record, written vertically. The characters are small and densely packed, typical of historical Japanese documents.

